

公開日: 2020/07/02 (掲載号: No.376)

〈小説〉『所得課税第三部門にて。』【第34話】「オンライン税務調査」

筆者: ハッ尾 順一

カテゴリ: 読み物 連載

〈小説〉

『所得課税第三部門にて。』

【第34話】

「オンライン税務調査」



公認会計士・税理士 ハッ尾 順一

「中尾統括官・・・新型コロナウイルスの影響で、今後の税務調査は、原則、オンラインになると思うのですが・・・」

浅田調査官は箸を持ちながら、中尾統括官に言う。

税務署の近くの蕎麦屋で、2人は対面ではなく、横並びで蕎麦を食べている。2日前まで休業していた蕎麦屋には、客は数人しかいない。新型コロナウイルスが騒がれる前は、お昼時には多くの客で店の中はごった返していた。

「なかなか客足は・・・元に戻りませんね・・・」

浅田調査官は、店の中をキョロキョロと見回している。

「君は[前にも言ってた](#)な。税務調査はオンラインになるって・・・」

中尾統括官は蕎麦を食べながら、尋ねる。

「僕はそう思うのですが・・・」

横に座っている浅田調査官は、中尾統括官の方ではなく、正面を向いて答える。

「しかし・・・納税者に直接会わずに、税務調査ができるのか・・・はなはだ疑問に思うのだが・・・」

中尾統括官も正面を向いたまま、チラリと横目で浅田調査官を見て言う。

「ベテランの調査官になると、相手の目の動きを見て、本当のことを言っているのか、嘘を喋っているのかを判断するものだが・・・オンラインだと、互いにそれぞれの画面を見ているだけから、そもそも目と目が合わないだろう。」

中尾統括官は、苦笑する。

「しかし、それは・・・古典的な税務調査ですよね・・・」

浅田調査官は、皮肉を言う。

「僕は・・・納税者に直接会わなくても、オンラインで意思疎通ができますから、それで十分だと思います・・・それに税務調査は、原則、事前通知をしますから、ガサ入れなどしなくても調査はできると思います。」

「ほう、君は・・・税務調査にガサ入れは必要ないと思っているのか？」

中尾統括官は、箸でつかんだ蕎麦を持ったまま、横を向く。

「僕は今まで、税務調査で納税者のロッカーや机の引き出しの中などを見たことはありません。」

浅田調査官は、平然と言う。

「しかし・・・税務大学校での研修では・・・税務調査でのガサ入れなどを教えてもらっているだろう？」

中尾統括官は、不満そうに言う。

「ああ、あれは・・・時代遅れでしょう。」

浅田調査官の答えは、素っ気ない。

「初めて“ガサ入れ”という言葉聞いたとき、ガサって何のことかわからなかったのですが、税務大学校の授業で『さがす』の反対が『がさ』で、警察で使われている隠語ということは教えてもらいましたけど。」

浅田調査官は、舌をペロッと出す。

「僕は、税務調査でわざわざ納税者の事務所や自宅に行く必要はないと思いますよ・・・個人の所得税は、一般にそれほど取引のボリュームもないので、提出された決算書の中の損益計算書や貸借対照表を精査して、異常な科目や数値について納税者に質問をすれば問題はないと思います・・・そして、取引先の資料せんなどから納税者の不正を発見できるように・・・納税者の情報をできるだけ収集すればよいのでは・・・」
そう言うと、浅田調査官は、蕎麦つゆを少し飲む。

「・・・やっぱり・・・オンライン税務調査に移行するかもしれません・・・」

浅田調査官は、横に座っている中尾統括官の顔をのぞく。

「例えば、税務署の中に税務調査の専用ブースが設けられて、その中で税務調査官が納税者とオンラインで接触し、調査を行う・・・なんてどうですか？」

浅田調査官が尋ねる。

「・・・」

中尾統括官は、黙ったまま腕を組んで、蕎麦屋の天井を見上げる。

「・・・調査官は、わざわざ納税者の事務所へ行く必要もないし、納税者も税務職員に来てもらいたくないだろうから・・・それに、マスク着用などの感染拡大防止策もオンラインでは必要がない・・・」

浅田調査官は独り言のように正面を向いたまま言う。

「そうだな・・・ひょっとすると君の言うように、オンライン税務調査が主流になるかもしれない・・・すでに国税庁では密かに、オンラインによる税務調査について、実施要項などを検討しているかもしれない・・・」

中尾統括官は、真剣な顔で答える。

「そうすると、オンラインでの税務職員と納税者とのやり取りは、録画することも可能になります・・・税務調査の可視化ですね・・・もっとも、オンライン税務調査を録画するということになると、国税通則法でその旨を規定する必要がある・・・」

浅田調査官の空想は膨らむ。

「税務職員と納税者のやり取りが録画されることによって、互いに迂闊なことが言えなくなるかもしれないな・・・」

中尾統括官は苦笑いをする。

「そうですよ・・・税務調査で、納税者に重加算税を認めさせる代わりに、増差所得金額を減らしてやるなんて話は、録画されるオンラインでは絶対にできない・・・」

浅田調査官は真面目な顔になる。

「それと、資料等のデータの送付は、情報セキュリティなどの安全性の観点からオンライン税務調査の導入を難しくしていると言われますが、オンラインで100%安全なんてことはありえないわけですから、むしろオンライン税務調査の大きなメリットを考えた場合、僕は、早急に導入した方が良いと思います。」

浅田調査官は、残っていた蕎麦をスルスルと一気に飲み込む。

「蕎麦を食べながら浅田君のオンライン税務調査講義を聞いたせいか、私は食欲が失せて、食べた気がしなかったよ。」

中尾統括官は、ゆっくり立ち上がると、浅田調査官をみた。

(つづく)

この物語はフィクションであり、登場する人物や団体等は、実在のものとは一切関係ありません。

「〈小説〉『所得課税第三部門にて。』は、不定期の掲載となります。